

第4回 但東地域 デザイン懇談会を開催しました

「第4回但東地域デザイン懇談会」を、10月6日（水）但東健康福祉センターで開催しました。「地域デザイン懇談会」とは、地域に必要な施設・公共サービスの提供機能について、市民の方々と一緒に議論する場です。

今回の懇談会では、第3回目において、参加者の皆さまに「集約・統合すべき役割・機能」「利用者にとってのメリット」等について議論していただきましたので、その結果について報告を行いました。

次に、年代別グループに分かれ、第3回目で議論した施設について機能・役割を別施設に移転し、複合化・多機能化するなら、どのような施設形態があり得るかを検討していただきました。今回は、実際に施設の図面を用いて、複合化・多機能化した場合の効果や利用者増に繋がる新たなサービスについても議論を深め、最後に各グループワークでの結果を発表し、全体で共有しました。

懇談会の様子



第5回 但東地域デザイン懇談会の開催について

【第5回開催日時】

日時：2021年11月2日（火）午後7時から

場所：資母体育館

【傍聴について】

傍聴をご希望される方は、但東振興局地域振興課へお申し込みください。

- (1) 対象者：但東地域に在住、もしくはは在勤の方
- (2) 定員：10名まで（定員になり次第、申込受付は終了します。）
- (3) 申込先：電話番号 54-1000 Eメール：tantou-chiiki@city.toyooka.lg.jp
- (4) 申込時連絡内容：① 氏名 ② 住所 ③ 連絡先電話番号
- (5) 申込期限：2021年11月1日（月）

参加者の皆さまによる検討案の一部を紹介します

Aグループ

- 合橋診療所 ⇒ 健康福祉センター空スペースへ移転
- 地域特産物加工施設
⇒ 廃止かコミュニティーセンターへ機能移転
- 小中一貫校となった場合は、但東中央体育館を廃止し、合橋小学校の体育館を利用する
- 日本モンゴル民族博物館
⇒ 普段から人の交流が出来るような使い方を検討（例）ゲル泊、グランピング

Bグループ

- 健康福祉センターにウェルストークのような、屋内でスポーツができる施設があったら良い
- 小学校・中学校が同じ敷地にあれば、交流もしやすく、メリットが高いのでは
- 日本モンゴル民族博物館と資母体育館を一体的に利用したイベントがあれば良い
- 但東に遊び場が無い
⇒ 遊具や自然体験できる場所があれば良い

Cグループ

- コミュニティーセンターの機能拡張
⇒ 行政機能等、可能なものは移転し振興局をスリムに
- 日本モンゴル民族博物館⇒もっと特徴のある施設に（例）ゲルでグランピング、ジンギスカン周辺含めて一帯を「歴史・文化ゾーン」として活用
- 子どもの遊び場がない
⇒ 自然を活かした他にない公園を作る
- 但東地域全体を一体で考え、特色を出す

Dグループ

- 高橋地区コミュニティーセンター
⇒ 他地域の人参加する色々な活動がある
- 高橋小学校
⇒ コミュニティーセンターなどと地域で使いたい
- 日本モンゴル民族博物館
⇒ 出張授業をきっかけに訪れる子どももいる
- 資母体育館 ⇒ スペースが広くイベント等で使用する

◇ご意見・ご感想◇

- ・ 地域の施設を利用する機会が少ないので、新しいことが知れて面白かった。
- ・ この会議で話し合った内容が、市政にどう反映されるのか。一方通行にならないように。
- ・ 地区別で考えるのではなく、但東町としていかに人を呼び込み活用し、残していけるかを考えていかなければならない。
- ・ 但東町を良くしたいという皆さんの思いがよくわかった。
- ・ 一概に「廃止」「継続」ではなく、細かいところまで話が出来たことは良かった。

【参加者アンケートより】

当日の配布資料など、詳細は市ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進室 電話 21-9129
但東振興局 地域振興課 電話 54-1000